

ふるさと下曽我を愛する子

夢に向かって挑戦する子

思いやる心を大切にする子

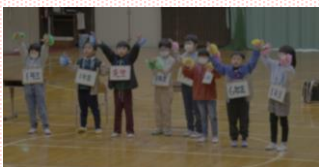
仲間とともに進んで行動する子

*記事の色はめざす子どもの姿に合わせています。

◆もうすぐ卒業式「ありがとう」がいっぱい◆

「卒業する6年生との思い出をつくりたい」「感謝の気持ちを伝えたい」という思いのもと、この1か月間、5年生が中心となって様々な活動が行われてきました。給食時間は6年生のリクエスト曲が毎日流れ、キラキラタイムや休み時間は6年生と一緒に思い切り遊ぶ子どもたちの姿がありました。

2月26日(木)は、「6年生を送る会」を開きました。「たくさんの『ありがとう』を伝えたいです」という1年生のはじめの言葉の通り、どの学年も工夫を凝らした出し物で感謝の思いを表現しました。1年生から5年生の寄せ書きのプレゼントや5年生が作成した6年生の思い出スライドの上映もあり、体育館は子どもたちの「ありがとう」でいっぱいになりました。最後は、6年生から劇と合奏がプレゼントされました。会場全体が盛り上がる堂々とした演技と迫力ある「情熱大陸」の演奏に、改めて6年のかっこよさと頼もしさを感じ、別れを惜しむ下級生の様子が印象的でした。



【1年生】たくさんお世話になった6年生との思い出を劇にしました。8人で堂々と演じる1年生の成長した姿に、6年生も目を細めていました。



【2年生】「スイミー」やかけ算九九を使って呼びかけをしました。6×9(ろっく)6年生最高!3×9(さんく)サンキューベリーマッチ!



【3年生】「ウメボシジンセイ」の劇とダンスを披露しました。梅学習、思い出してくれたかな。



【4年生】手作り衣装を着たキャラクターたちが、「秘密の合言葉」を探しに出かけます。見つけた合言葉は・・・「6年生今までありがとう」

下級生の頑張りを
優しく見つめる6年生



【5年生】神が与えた試練「本当の宝探し」に出かけた仲間たち。6年生の姿から、本当の宝は「相手を思いやる気持ち」だと気付く素敵な結末のオリジナルストーリーでした。



【6年生】小学校の思い出を奪われた6年生がタイムマシンで過去に戻ります。最後は思い出ビームで敵を倒すという劇を面白おかしく堂々と演じました。



冬休み前から練習してきた「情熱大陸」。テンポを合わせるのが難しい曲ですが、教え合ったりアドバイスし合ったりして何度も練習し、完成させました。下級生の心に響く素晴らしい演奏でした。

校舎の中にも「ありがとう」がいっぱい



1,2年生が描いた6年生の似顔絵



4年生が作成した
6年生教室前の飾り



5年生が飾り付けをした下駄箱



3年生が作成した体育館の飾り

先日、6年生に読み聞かせをする機会がありました。卒業前最後の一冊ということで随分迷いましたが、「たいせつなこと」(マーガレット・ワイズ・ブラウン作 レナード・ワイズガード絵 うちだややこ訳 フレーベル館)という絵本を選びました。この絵本は、身の回りにある一つ一つのものに「たいせつなこと」があること、そして、「あなたにとってたいせつなことは、『あなたがあなたであること』」を教えてくださいます。

19日には6年生31名が巣立っていきます。子どもたち一人一人の未来が、自分らしい豊かなものになることを心から願っています。

◆梅学習の発表◆

2月10日(火)、3年生が梅まつりの会場で、1年間の梅学習(総合的な学習の時間)の発表を行いました。

クイズを入れたり図を使ったりして観客に梅のよさを一生懸命に伝える姿から、下曽我の子であるという誇りと自信を感じました。



「梅戦士が乗りこえてきたことチーム」

梅もぎ、梅シロップ・梅干し作りなど、自分たちの1年間の歩みを写真とともに紹介しました。

梅シロップは何で割るとおいしい?
①牛乳②紅茶③コーヒー
(全て正解)



「梅シロップ団」

クイズを入れながら、梅シロップやジュース、ゼリーの作り方を紹介しました。



「梅干しチーム」

「黄色の梅を収穫する」「傷つけないようにへたを取る」など梅干し作りのコツを説明しました。



「梅の歴史チーム」

梅は中国から渡ってきたこと、小田原の梅は500年前から植えられていることなどをクイズ形式で紹介しました。



「うめころクイズチーム」

「ころめめのチャームポイントは、頭についた花です。」小学校のキャラクターころめめの紹介をしました。



「梅のげきチーム」

「これからも下曽我を大切にしていきたいね。」台詞から下曽我を愛する気持ちが伝わってきました。

チームの発表後は、自分たちで振り付けた「ウメボジゲンセイ」を全員で踊りました。最後に、作った梅干しを梅まつりにいらした方々にプレゼントし、満面の笑みの子どもたちでした。

梅の収穫や梅干し作り、梅まつりの発表など、多くの場面で地域の皆さまのご協力をいただきました。

心より感謝申し上げます。

◆平和について考える◆

3月10日(火)、5年生がゲストティーチャーを招き、広島原爆について学びました。

話をしてくださった西さんは、2歳で被爆されました。13歳のお兄さんは、学徒動員先で被爆し、10日ほどで亡くなったそうです。西さん自身も命の危機にありましたが、お母さまの必死の看病で回復したということでした。西さんは「自分の目と耳で情報を得て、考えてほしい。関心をもってほしい。」と子どもたちに思いを語りました。

子どもたちからは「原爆を見たことはなく、イメージができなかったけれど、話を伺っておそろしさを実感した。自分は何もできないかもしれないけれど、関心をもち続けたい。」という言葉が聞かれました。

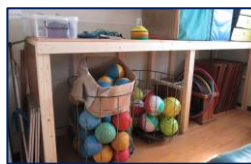
以前、医師の日野原重明先生の著書「十歳のきみへ 九十五歳のわたしから」を読んだことがあります。その中で日野原先生は、「知る」という行為は、情報として処理をするということではなく、想像力や思いやる力を同時に働かせながら行うものであり、知った瞬間からそれは自分と無関係ではなくなると言っています。つまり、「知る」ということは、「知ったことへの責任が生まれる」ということです。

今、世界の情勢は非常に緊迫しています。相手の立場になって考えること、いじめや暴力を許さないこと、助け合うこと、ニュースを見てなぜ戦いが起きたか考えたり家族や友達と話し合ったりすること。平和な世界をつくるために自分ができることは何かを考えるきっかけとなる授業でした。

小さな積み重ねが、平和につながっていくと信じています。



地域にお住いの「梅ちゃん工房」の穂坂富幸さんが、体育倉庫の棚や跳び箱移動台の製作、渡り廊下の柵の修繕、百葉箱の塗り直しを行っていただきました。使い勝手がよくなり、子どもたちが安全に学習したり生活したりできるようになりました。ありがとうございました。



行事予定はこちらからご確認ください。



学校 HP もご覧ください。

学校だよりをカラーでご覧いただけます。

https://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/shimosoga_s